

平成18年度「みどりの日」自然環境功労者表彰
環境大臣表彰受賞者一覧

受賞者数42件(個人:18、団体24)

保全活動部門(15件)

	受賞者	功績概要
1	ダイセツ イシカリ 大雪と石狩の自然を 守る会(北海道)	大雪山における野生動物の生息状況調査、石狩川における水質調査、植樹活動及びサケ回復運動など、永年にわたり保全活動を推進するとともに、講演など自然保護思想の普及に貢献。
2	ナトリ シリツ コリアゲ 宮城県名取市立関上 中学校(宮城県)	海岸の清掃活動を永年にわたり実施するとともに、県の絶滅危惧種ハマボウフウの保護と増殖に向けた調査・保全、海岸松林再生のため、学校と協働した植林など地域の環境整備に貢献。
3	ホシ カズアキ 星 一彰 (福島県)	ブナ原生林などの保全、尾瀬湿原の復元作業、阿武隈川及び阿賀野川水系の水質調査及び自然観察会など、永年にわたり自然保護活動に貢献。
4	サトウ ヨシヤス 佐藤 好億 (福島県)	大川羽鳥県立自然公園内において、温泉宿を営む傍ら、周辺のブナ原生林の保全、動植物の保護・管理活動、利用者指導など永年にわたり自然環境の保全に尽力。
5	コスゲ ツギオ 小菅 次男 (茨城県)	県の希少な野生生物ヒヌマイトトンボ(絶滅危惧 類)やオゼイトトンボなどの研究や保全活動、ホタル生息地の復元、国定公園での巡視など野生生物保護活動に尽力。
6	サトオヤ カイ メダカ里親の会 (栃木県)	県内のメダカ(絶滅危惧 類)生息地などのデータ蓄積、自治体へ情報提供、「メダカ保護活動ガイドライン」作成、田んぼの生き物図鑑の出版等農村地域の生物多様性を確保するための広汎な活動を展開。
7	エラ ヨシトシ 恵良 好敏 (千葉県)	流山市において、生態系ネットワークの確保の観点から、自然観察の森を実現させる活動を展開し、オオタカ(絶滅危惧 類)などの生息する森林環境の保全を目指した県立森林公園の設立などに結実。
8	カカミガハラシ 各務原市シデコブシ マモ カイ を守る会(岐阜県)	永年にわたり、シデコブシ(絶滅危惧 類)の観察会や自生地の分布調査、保存のための提言及び展示会などを通じて、生育環境の保全に尽力。
9	オ オ ス カ テツオ 大須賀 哲夫 (愛知県)	海岸におけるアカウミガメ(絶滅危惧 類)の実態調査及び啓発活動を継続的に実施し、アカウミガメ保護の指導的な役割を担うなど、アカウミガメの保全活動に尽力。

	受賞者	功績概要
10	コウノ ヤマホゼン 神於山保全くらぶ (大阪府)	神於山において、放置された里山での間伐、下刈りなどの保全活動を積極的に展開しているほか、里山と人との関わりを普及するためのボランティア育成講座の実施など、里山の保全再生に貢献。
11	カンザキグンカミカワ チョウ 兵庫県神崎郡神河町 川上集落(兵庫県)	約90ヘクタールに及ぶススキ草原の野焼きなどによる草原景観の維持、植生保護のための木道整備、利用者指導など集落が一体となって永年にわたり草原環境の保全活動に尽力。
12	ヒロカワ チョウリツギ 広川町立津木中学校 (和歌山県)	ゲンジボタルを保護するため、永年にわたり、生息調査や生態研究、ホタルの幼虫飼育や放流、川の水質調査、研究成果の発信などを通じて、ホタルの生息環境の保全に貢献。
13	イノウエ ヒデユキ 井上 英幸(佐賀 県)	樫原湿原の重要性について昭和30年代から提唱し、県自然保護条例制定の契機となったほか、自然再生法による全体構想の全国初の策定に貢献するなど、希少な動植物の生息環境保全に尽力。
14	サトヤマ 里山クラブ どんご ろす(熊本県)	里山づくりの伝統と知恵の継承を目指して、竹林整備、炭焼き等を行うとともに、竹細工等に取り組み、資源の循環利用を図りながら環境教育を実施するなど、里地里山の保全に貢献。
15	J A れいほく女性部 連絡協議会(熊本 県)	海岸の漂着ごみから県天然記念物ハマジンチョウ(絶滅危惧 類)を保護するため、地域から200~300人のボランティアでの参加も得て、継続的に清掃活動を実施し、ハマジンチョウの植生回復に貢献。

いきもの環境づくり・みどり部門(7件)

	受賞者	功績概要
16	クズマキチョウリツ、ヤ セ 葛巻町立小屋瀬中学 校(岩手県)	地域の水質や生き物、植物の調査を実施し、モリアオガエルの生息地等を確認したほか、河川工事の際には希少種の調査や移植作業など自然環境に配慮した川づくりに貢献。
17	ボーイスカウト千蔵 ダイイチダン 第一団(岩手県)	ホタルの飛ぶ川に戻すことを目標に千厩川で水生生物調査による水辺の自然環境把握、河川の清掃、流域住民への啓発など永年にわたり、いきものの生息環境づくりに尽力。
18	オダワラ タダシ 小田原 正 (山形県)	八ツ面川流域で、水辺環境の維持管理のほか花の植栽、藻刈り、落ち葉清掃など地道な環境改善活動を継続し、イバラトミヨの個体数増加に貢献。
19	ツルマイ 鶴舞カントリークラブ 部(千葉県)	永年にわたり、緑豊かな環境の国土づくりを目指し、千葉県内の学校、公園、病院、福祉施設等公共施設における緑化植樹、環境保全・緑化普及啓発等に貢献。

	受賞者	功績概要
20	社団法人ゴルファー の緑化促進協力会 (東京都)	学校、公園、福祉施設など公共施設の緑化植樹、松くい虫防除対策、芝の校庭緑化研究支援、絶滅の危機に瀕する動植物保護、普及啓発など永年にわたり、みどりの自然環境創出に貢献。
22	ムロフシ ユウソウ 室伏 友三 (神奈川県)	永年にわたり、中学校などにおいて、野鳥を窓口に身近な自然を題材としたピオトープづくりやその管理、環境教育活動を進めるなど、野鳥を中心とした地域の環境保全意識の高揚に尽力。
21	特定非営利活動法人 アサハタシツゲン 麻機湿原を保全する 会(静岡県)	絶滅が危惧される貴重な動植物が多く生息する麻機湿原の自然環境の保全と再生に取り組むとともに、自然観察会の開催など自然環境教育にも尽力。

自然ふれあい部門(13件)

	受賞者	功績概要
23	特定非営利活動法人 カブクリ 蕨栗ぬまっこくらぶ (宮城県)	蕨栗沼や周辺水田の動植物調査、観察会や清掃、環境保全型農業としてのふゆみずたんぼの取り組み、ゼニタナゴ(絶滅危惧1B類)の生息環境の復元、児童への環境教育など、動植物の価値と保全の意義を広く普及。
24	ヒタチオオタ シリツ ハクソメ 常陸太田市立機初小 学校(茨城県)	環境学習の一環として河川の自然観察を継続して実施のほか、特色ある学校づくりとして動植物観察やサケの飼育放流活動、クリーン作戦等、自然とのふれあいを通じて環境保全に貢献。
25	マシコ ヨシジロウ 益子 美治郎 (茨城県)	野鳥観察の仕方や楽しさを永年にわたり指導しており、特に地元の小中学校の生徒に野鳥等の観察指導を通じてマナーの向上や楽しさを伝えるなど、自然とのふれあいに貢献。
26	ウエハス 殖蓮地区自然環境を 守る会(群馬県)	「子供の目を生き物に」をテーマに、家庭でサケの受精卵から孵化までの観察・飼育を行い、育てた稚魚を学校、地域等の協力を得て放流し、地域住民が自然とふれあう機会の提供に貢献。
27	ナカムラ サダシ 中村 貞利 (埼玉県)	永年にわたり、子どもたち対象の釣り教室の開催により、ごみ投棄の防止、水生生物や自然環境の保全の重要性を普及。
28	ヒガシヤマトシ サヤマ リョウチ ソウ 東大和市狭山緑地雑 キバヤシ 木林の会(東京都)	放置されていた狭山緑地の雑木林の保全再生のため、下草刈り、自然観察会などを継続的に実施しているほか、市内小学校の体験教室に協力し、環境教育の場として活用するなど緑地の保全と普及啓発に尽力。
29	コ アジロ 小網代の森を守る会 (神奈川県)	小網代の森の保全のため、永年にわたり自然観察会の実施やガイドブックの発行の他、パトロールを実施。また、かながわトラストみどり基金への寄付を募る活動など、普及・啓発に貢献。

	受賞者	功績概要
30	キクカワ シゲル 菊川 茂 (富山県)	富山県内の自然ガイドブックの出版、自然解説技術の資質向上のための研修、自然環境調査、自然観察会など、永年にわたり、自然保護思想の普及・啓発に尽力。
31	コバヤシ リオ 小林 則夫 (福井県)	主に子供達を対象に、森のガイドや自然観察会を実施するとともに自然についての調査研究を行い、子供達の自然とのふれあいの機会の提供に貢献。
32	シマ シリツ ケテガミ 志摩市立立神小学校 (三重県)	地域の漁業体験や干潟環境の再生試験など、地域産業と自然環境の理解を深め、児童自らが構成した「環境劇」をシンポジウムで発表するなど、自然環境保全の普及啓発に貢献。
33	にちはら自然の会 (島根県)	西中国山地国定公園において、自然観察会の実施やガイドブックの作成・配布など、国定公園の豊かな自然を地域住民等に紹介し、住民とともに自然保護活動に尽力。
34	オオムタ セイブツ アイコウカイ 大牟田生物愛好会 (福岡県)	定期的な自然観察会を永年にわたり実施し、その際の調査結果を自然環境調査レベルまで高め、貴重な刊行物等として広く市民に提供し、地域の自然環境保全や環境教育に貢献。
35	特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会(大分県)	カブトガニ(絶滅危惧 類)の他、アオギス、ナメクジウオなど県の希少種や干潟の調査、保全活動実施や情報発信、観察会、地域の環境学習サポートなど啓発活動に貢献。

調査・学術研究部門(6件)

	受賞者	功績概要
36	ヤマモト スミオ 山本 純郎 (北海道)	道立自然公園などの貴重な自然環境の保全、傷病鳥獣の保護、特にシマフクロウ(絶滅危惧 A類)の保護では世界初の人口巣箱での営巣や人工孵化成功等動植物の調査研究に尽力。
37	ヨコハマ ヤスツグ 横濱 康繼 (宮城県)	藻類学の専門家として、永年にわたり調査研究を続けるとともに、自然環境保全基礎調査に関わっているほか、海藻の押し葉標本作製講習会や磯観察会などの普及啓発活動にも尽力。
38	オチアイ イツミ 落合 和泉 (栃木県)	蛾の専門家として、栃木県内に生息する蛾について、永年にわたり調査・研究し、ミツモンケンモン(絶滅危惧 類)の生息を確認するとともに、県レッドデータブックの作成など、野生生物保護に貢献。
39	カタヤマ ミツアキ 片山 満秋 (群馬県)	永年にわたり、水中昆虫・水生生物の専門家として、尾瀬地域を始めとする群馬県内各地の自然環境調査を実施するとともに、その成果を自然環境保全基礎調査や奥利根地域学術調査など報告書として発表しているほか、県のレッドデータブック作成に尽力。

	受賞者	功績概要
40	ヨシユキ ミズコ 吉行 瑞子 (東京都)	動物分類・地理学の専門家として、コウモリ、ニホンオオカミ等ほ乳類を対象に調査研究を行う一方、レッドデータブックの作成協力。さらに野生動物に関する講演など自然保護思想の普及啓発にも寄与。
41	ミヤタ ワタル 宮田 渡 (長野県)	生物部門の専門性を活かし、長年にわたり地域の研究とともに、市文化財審議委員として調査、審議に貢献したほか、市民の環境教育指導を行うなど自然環境研究と保全活動に貢献。

国際貢献部門(1)

	受賞者	功績概要
42	ラムサールセンター (東京都)	政府、自治体、国際機関、研究者、企業等多様な主体と協力し、各種シンポジウムを開催する等広範な活動を展開するとともに、ラムサール条約締約国会議において、声明や報告書、環境教育の教材を提供するなど、日本国内とアジアの湿地の保全と賢明な利用に貢献。